

今、なぜ、行財政改革か

これまでと今、そしてこれから

「シリーズ行財政改革②」今回は、これまでの町の取り組みとともに、これからのに向けた行財政改革の必要性についてみていきたいと思ひます。

2ページ

これまで

日の出町は、町制施行後これまでの間に、様々な施策を展開し、時に財政的な危機を乗り越えながら、今日まで行財政運営を行ってまいりました。

インフラにおいては、下水道整備を進め普及率が100%となっているほか、道路工事大作戦を掲げ、毎年度、継続的な舗装や側溝の補修を行い、道路の維持に努めております。福祉については、平成3年「福祉村構想」を発表し、子育て支援・高齢支援・医療費助成など幅広い福祉施策を展開してまいりました。この他、三吉野土地区画整理等による工業団地開発や大型商業施設の誘致、町民参加の各種イベント、つるつる温泉開設など多角的なまちづくりを進め、今日に至っております。

また、昭和56年と平成5年に廃棄物広域処分場を受け入れ、都のごみ行政にも大きく寄与しております。

インフラ・施設

- ・下水道整備
- ・道路新設改良
- ・道路工事大作戦
- ・老人福祉センターの設置
- ・自治会館の設置
- ・つるつる温泉センター開設
- ・文化の森造成
- ・野鳥の森自然公園整備
- ・三吉野土地区画整理（工業団地開発）
- ・三吉野桜木土地区画整理（宅地開発、大型商業施設誘致）など

生活・福祉

- ・次世代育成クーポン
- ・子ども医療費助成
- ・青少年育成支援金
- ・青少年医療費助成
- ・高齢者医療費助成
- ・がん医療費助成
- ・元気で健康に長生き医療費助成
- ・元気に長生き奨励金
- ・寝たきり高齢者支援
- ・外出支援バス運行
- ・コミュニティバス運行
- ・各種イベント（桜まつり、産業まつり、夏まつり、元旦マラソン、スポーツフェスティバル等）など

今

日の出町と類似団体との予算使途比較

日の出町では、インフラの整備後、特に福祉の充実に力を入れ、優先的に資源を配分してまいりました。

右のグラフは令和元年度決算における住民一人当たりの支出額を、行政目的別に集計し、類似団体（※）と比較したものです。

日の出町は土木建設や産業の振興などの支出額がやや低い傾向にあります。一方で、生活・福祉における支出額が突出しており、類似団体平均と比較して一人当たり8万円以上の支出となっていることがわかります。

（※）人口と産業構造の組み合わせによって自治体を類型化し、比較対象としたもの

住民一人当たりの支出額比較

（令和元年度決算データ）

